

## 令和7年度 第2回苫小牧市社会教育委員会議 会議録

日 時：令和8年3月23日（月）午後2時00分～午後3時15分  
場 所：苫小牧市役所第二庁舎 2階 北会議室

出席委員 藤島議長、奥村副議長、今田委員、榎本委員、齋藤委員、高橋委員、東委員  
（7名）

欠席委員 池田委員、坂木委員、小越委員（3名）

事務局 教育委員会：園田教育部長、齋藤教育部次長  
生涯学習課：田中課長、齋藤課長補佐、大垣主査

---

開 会 （進行）田中生涯学習課長

挨拶 藤島社会教育委員会議長

議 事 （進行）藤島議長

（1）第六次生涯学習推進基本計画に基づく取組状況報告

※事務局（齋藤課長補佐）より説明

（2）第3次苫小牧市民文化芸術振興推進計画策定報告

※事務局（大垣主査）より説明

（3）その他

・令和8年度（2026年度）教育行政執行方針について

※齋藤次長より説明

・第六次生涯学習推進基本計画に基づく取組状況報告について

<質疑の内容>

○議長 ただいまの説明、事前に皆さんに資料を送られておりますが、皆さまからご質問・ご意見等ありましたらお願いします。

私から、講師の謝礼に問題があって開催できなかったということですが、具体的にどのようなことでしょうか？

○事務局 担当課から伺いますと、昨年度もこちらが課題になっていたところで、月に1万円の謝礼や打ち合わせでパソコンの用意が必要など、新たな課題が増えてきたというところで、開催ができなかったというふうに伺っております。

○議長 障がい者文化教室のカラオケは、生涯学習としてなかなか難しいのでしょうか

か？

○事務局 カラオケ教室は、身障者福祉連合会さんの方で開催したいというご要望がありましたが、会場が福祉ふれあいセンターを利用させていただいているのですが、施設の特性の中で、コロナ禍から開催できずという状況になっています。団体さんでいずれ開催したいというお話で、長引いてしまったんですけども、なかなか難しいという状況があったので、今年度は違う事業ができないかということで検討したところ、講師が見つからず断念したという状況です。

○副議長 評価ですが、どのような評価基準になっていますか。

○事務局 事業に対する担当課の自己評価をしていただいております。自己評価は、事業の進み具合や効果、次に取組むべき課題などを明確にしていく目的で実施し、(A) 順調 (76～100%)、(B) おおむね順調 (51～75%)、(C) やや遅れている (26～50%)、(D) 遅れている (0～25%) という形で、各課に照会させていただきました。計画最終年は、苫小牧市総合計画の評価参考に、(A) 達成している、(B) 概ね達成している、(C) やや下回る、(D) 大きく下回る (事業の見直しを要する) などの評価としてはと考えております。また、本計画は令和5年度から開始し3年目となりますが、現状では担当部署においての自己評価で、A評価は引き続きより良い事業となるよう取り組んでいただく。B評価とはA評価になるよう取り組んでいただくことが重要と考えています。

○副議長 評価についてですが、非常に難しいなと思うんですけど、多分KPIという、そういう評価、国が推奨している基準値、数値をもって評価されていると思うんですけども、我々大学でやりますとルーブリック評価というものがありまして、学生も教職員も相互に評価指標を理解できる。事前にそれを見せて、「だからあなたは今この段階なんだよね」と双方が理解できる評価を最初に出すんですけども、ただ単に数値があってその数値を達成する目的で実施という、ちょっと寂しいかなというふうに思います。5年目に評価の方法を変えるということで提案もあるのかと思いますので、その辺のときに楽しみにしております。

○議長 確かに、社会教育では学校と違って、受講している人のレベルなど、なかなか評価するのが難しいと思うんですよ。受けている方も「これでいいのかな」とか。誰がどういう評価をするのか、非常に難しい。こういう社会教育は、学校の先生が評価されるのとは違いますし。よっぽどまずいなということがあれば、そういうところをお知らせしていただきたいなと思っております。よろしいでしょうか？

○副議長 もう一つ、感情論じゃなくて客観的評価基準が欲しいということです。例えば、我々の学生が全員出席だと「よく頑張ってるよね」と思ってA評価をつけたいと思っても、それでいいのか。そうじゃなくて、きちんとテストを何回やります、

予習はこれだけしてきたら点は取れます、という基準をきちっと示しておいて、それで評価する。この子が頑張ってるよね、という感傷的なものでは評価してはいけない。それと一緒に、これもA評価が多すぎるので、自己満足になっているのでは、という趣旨を含めて、もう少し客観的な評価がわかる計画を示されると、より良くなるのかな、というふうにちょっと思いました。

○議長 副議長のおっしゃることは、市の評価ですね。個人の評価じゃないんで、それを我々が市の立場になってどう見るかという評価だと思うんですよ。市の方が自己満足で「これだけやったからいい」と取るんじゃないんで、参加してくれた人がこれだけのことを担ってくれている、という評価に繋がるのであれば、全然問題ないと思います。5回やる計画で5回やったからA評価、4回だったからB評価、という単純なものではない、ということですね。

○委員 例えば、文化交流センターのような指定管理施設では、毎回利用者アンケートを取って、「運営はどうでしょうか」「寒くてしょうがない」などいろんな要望も出てきて、運営協議会などでどう解決ししたり、評価をしているところもあります。

○委員 ちょっと戻るんですけど、5ページ目の障がい者文化教室で、健康麻雀が「参加者が集まらなかったから中止」と書いてあるんですよ。募集方法がどうなのかとか、なぜ受講生が集まらないのかということについて、検討した形があるのかなと。例えば、障害のある方が「自分ではできない」と思い込んでいるかもしれない。それに対して「こういうふうに支援員がつくのでできますよ」とか、ちゃんと明記しないと来ないかもしれないし、興味があっても参加しづらい。この生涯学習課さんの方なのか、団体さんの方で検討というか「どうしてだろうね」というお話し合いはしているのでしょうか？

○事務局 委員おっしゃっていただいた通り、団体さんとは「どうすれば参加していただけるのか」というところをお話しさせていただきました。その中で、病院とか施設にチラシを配布したり、職員の方にも相談させていただきましたが、なかなか難しく、今回参加者が集まらなかったという形でしたので、周知方法には課題となっているのが現状です。

○委員 例えば、「目が見えないのですができますか」「耳が聞こえないのですが大丈夫ですか」という心配に対して、「こういう支援でできますよ」ということを明記しないと。ただ「やっています、障害をお持ちの方も来てください」というチラシだと、なかなか集まりにくいのかなと。障害のある方の心配を解消していかないと、と思います。ぜひその点、なかなか難しい点かと思いますが、なぜ集まらないのかというところをもう少し検討していただければと思います。

○議長 指定管理の自主事業で、計画に対してできなかったということに関して、何かペナルティのようなものはないんですか？例えば、募集したけど人が集まらな

かった。なぜですか？とそういう指導はあるのでしょうか？

○事務局 この障がい者文化教室については、生涯学習課の事業として講師の謝礼を出し支援していますが、それとは別に指定管理施設で事業を実施するものについては、指定管理者制度のもとにモニタリング調査がありまして、その中で事業が実施できなかったものなどがあれば指導させていただいたり、評価として下がってしまう、という仕組みがございます。

○副議長 評価について、25%で区切られた評価だと思うんですが、できればBとCの幅を広げるなど、そういう評価基準の見直しはないのでしょうか。A評価が75%以上だと、結構簡単にA評価になってしまう。もう少し厳しく見ておけば、担当者も「もっと頑張ろう」という取り組みをするのかな、という感じがします。

○事務局 この評価指標は、第4次計画のときに、委員からご指摘があり評価指標を設け継続させていただいているという経緯がございます。もし、今おっしゃっていただいたような、幅を見直すというところであれば、次期計画に向けて、どのようにするのがいいか検討していければと思います。

○副議長 例えば、Aが76%以上ということになっているのであれば、80%以上とかにするとよいと思います。

○事務局 計画の4ページに記載させていただいておりますが、計画の最終年では、具体的な施策に基づき所管課が実施した事業を、このときはコロナの影響もあり、A達成、B概ね達成、C達成不十分、D事業の見直しを要する、Eコロナのため事業規模縮小、Fコロナのため事業中止の自己評価を掲載した評価表を作成、その資料に基づき社会教育委員の検証を行っております。本計画でも最終年では同様の考え方で次期計画に反映するかも含め、検討していければと考えております。

○議長 そうしたら事務局の方で、次期計画に向けて、今の点も含め、他都市の事例などを調べてもらって、参考にさせてもらうということで皆さんよろしいでしょうか？

○事務局 先ほどご説明したプログラミング教室のD評価の件ですけれども、いかがでしょうか。

○議長 今問題なのは、この事業ができなかったということで、評価は最低のD評価。だから新しい指定管理者でどう対応するか。高専と連携したいということで、高専の先生はそんなに高い謝礼を要求しないと思いますし、連携しながらこの事業をやっていくべきだと思います。結構最近盛んな事業だし、小さい子みなさんも関心がある。

○委員 自主事業としてやろうとしたのにできないということは、そもそも管理団体が不十分ではないかという評価になってしまうのでしょうか？

○事務局 担当課である市民生活課の評価としてはご説明させていただき、委員がおっし

やるとおりなのですが、市としては、未来創造戦略室で同様の事業を開催できていた。そのため、市としての評価としてはいかがかというところをご検討いただきたい、という趣旨でご説明させていただきましたが、いかがでしょうか。

- 委員 他のところで同様の事業を行っているということですね。
- 副議長 それを表記されたら、評価も変わってくるのかなと。この資料だけだと、何もやっていないとしか見えないのでD評価はやむを得ませんが、例えば「ただし、未来創造戦略室において同様の事業を実施」といった注記があれば、全体としてはB評価でもよろしいか、というふうな形になると思います。
- 議長 それでは、事務局で、市の関連部署としての取組みを追記する形で修正し、B評価するということではいかがでしょうか。
- 副議長 他の部署でやっているということを表記すれば、評価も変わってくるかと思えます。現行の基準のパーセンテージに合わせてB評価で修正していただければと思います。

・第3次苦小牧市民文化芸術振興推進計画策定報告について

<質疑の内容>

- 議長 平成18年度からということですが、そもそもこういう計画を作るきっかけは何だったのでしょか？
- 委員 たまたま当時、市の教育委員会でこの条例に係る仕事をしておりました。これは議員提案ということで、市が提案したわけではなく、各会派の議員が「全国に先駆けて、我々も何かいいものを作ったらいいんじゃないか」ということで、ある方が発起人となりまして、この「市民文化芸術振興条例」を平成13年に作りました。それに伴って、計画の策定や財政的な裏付けを作るのに多少手間がかかり、審議会などを経て、第1次計画に至ったということです。本当にこれ、全国に先駆けての条例なので、スポーツとともに文化が苦小牧の二本の柱になる、という趣旨で議員が提案したと聞いております。

・令和8年度（2026年度）教育行政執行方針について

<質疑の内容>

- 副議長 苦小牧市は東西に細長い市域ですが、両サイドから真ん中に来るのは交通の便も非常に悪く不自由しています。そういった中で、地方でこういうものが作られていく環境を整える際に、交通政策などが加味されると良いと思うのですが、そのあたり、横の連携は大丈夫でしょうか？
- 斎藤次長 学校再編について、私自身、部長もそうですけど、市のいろんな会議にも出席させていただいて、市の情報は常にもらっていますので、そういったところ

でしっかり発信していけたらと思います。常に情報交換しながら、どの地域も取り残されることがないように丁寧にやっていきたいという考えでございます。

- 議 長 7ページの「教育支援センターあおば学級を移転し学習環境を整備」について、これはもう場所は決まっているんですか？
- 園田部長 もう少し詳しく説明させていただきますと、今は、教育支援センターはご承知の通り、旧市立病院の教育福祉センターの中にあります。移転する場所は、若草町にあるメンタルケアセンターの中になります。この移転の一番の目的は、医療との連携です。隣接する病院の先生たちと、希望する生徒さんや保護者さんが相談できるような体制を考えており、9月1日の移転を目指して、今考えているところでございます。
- 議 長 その次の「校内教育支援センターに配置する不登校対策支援員の増員」というのは、どういうことですか？
- 斎藤次長 今年度から、「校内支援センター」という学校の中に居場所を作って、元々保健室登校などはあったんですけど、支援員をつけて、教室以外の居場所を確保できる仕組みがスタートしています。1年目は12人の支援員を配置したんですけども、新年度はさらに12人増やし、計24人になります。一応3年間で全校にそういった支援員を配置して、担任の先生だけでない体制・環境を作りたいということで進めています。
- 副議長 不登校ではないんですが、外国人児童生徒への支援という項目はないと思うんですが、こちらの方、今どのような方向性があるのでしょうか。何か見えているものはあるのでしょうか？
- 斎藤次長 実際ですね、日本語を喋れない外国人の子どもたちというのが年々増えていまして、今、小中学校で30人近くになっています。道教委からの加配の教員というのも、なかなか追いつかない状況で、実際にはポケトークなどの翻訳アプリなどを使いながら授業に参加してもらっているのが現状です。市の国際交流担当の方とも協議させてもらっていて、いきなり学校に行くのではなくて、一旦、日本語であったり日本の学習習慣であったりというのを少しの期間学ぶことができないか、というようなことも今検討している段階なのですが、まだ新年度からのスタートはできていない状況でございます。
- 副議長 要望があれば我々が教え方を教えたりお手伝いしますので、どこで困っているのか、どうお手伝いできるのか、ぜひ連携させていただければと思います。

閉会 15:15